

…奈良県教育委員会事務局特別支援教育企画室より巻頭言をお寄せいただきました…

特別支援教育の新たな発展に向けて

平成 19 年度より特別支援教育が本格実施されて 3 年目、ようやく特別支援教育は「特定の場で特定の子どものために特定の教員だけで行うものではない。」という認識が根付いてきたように感じています。県内の小学校・中学校・高等学校では、特別支援教育コーディネーターの指名及び校内委員会の設置が 100% となり、幼稚園でも順次、指名及び設置が進められています。また、特別支援学校のセンター的役割を十分に機能させるとともに地域の医療、福祉、労働等関係機関とのより一層の連携等を図り、地域ぐるみの取組を進めているところです。

奈良教育大学特別支援教育研究センターには、これらの取組に対し、特別支援教育を支える人材の育成をはじめ、実践的な研究や地域との連携などを通して多大な貢献をしていただいております、あらためて御礼申し上げます。

さて、今年度、奈良県教育委員会では特別支援教育を充実・発展させるために、これまでの学校教育課特別支援教育係と県立教育研究所特別支援教育部を一体化し、県教育委員会事務局に新たに「特別支援教育企画室」を設置しました。特別支援教育第一係は県庁内に、特別支援教育第二係は引き続き奈良県総合リハビリテーションセンターに置いています。なお、第二係では引き続き研修・相談業務等を行っています。

今後、地域・各学校の支援体制の整備を進め機能を高めるとともに、通常の学級における指導や授業の充実を図り、「すべての子どもが輝くために」奈良県の特別支援教育を創造していきたいと考えております。

県内各地域及び各機関のさらなる連携・協力をよろしくお願いいたします。

センターからのお知らせ

「特別支援教育に関するガイド」が完成しました

このガイドは特別支援教育研究センターの相談活動でよく質問される内容を中心に Q&A 方式で解説したものです。内容は「保護者の方へ」「学校の先生へ」「地域の人々へ」に分類しています。巻末には「リソースマップ」として奈良県下の特別支援教育に関係する機関が連携し一層各々の役割を果たせることを願って「教育」「医療」「福祉」「保健」「その他」に機関の紹介をしています。奈良県下の幼稚園、小学校、中学校、高等学校に配布します。また、本学 WEB サイトでもご覧いただけます。大いにご利用下さい。

特別支援教育支援員養成講座受講修了者の登録名簿を各市町村教育委員会へ

昨年度より特別支援教育支援員の採用が始まり、本学でも、支援員の養成を目指して平成 20 年度に特別支援教育支援員養成講座を開講しました。本学での 7 講座と推薦講座として奈良県教育委員会社会教育課などが行われた 5 講座を指定させていただき、それらの講座から所定の回数(本学講座 5 講座以上計 7 講座以上)を受講された方の登録者名簿を作成しました。大変熱心な受講があり、99 名の方が登録されました。この登録者名簿は奈良県下各市町村教育委員会に直接お送りさせていただきました。今後、特別支援教育に関する支援員の採用が増加すると思われませんが、できればこの登録者名簿の活用を期待しています。

平成21年度の取り組み

【発達支援】

- ▶ 相談件数:55件(再相談、専門プログラムを除く)
- ▶ 相談例(主に、保護者様からのものです)
 - 「手先の不器用さやバランスの悪さについて、幼稚園での配慮点やアドバイスが欲しい」
 - 「不登校で、対人関係を築くことの苦手さや学力にも遅れがある。今後の支援の方策を得たい」
 - 「次年度就学だが、特別支援学校か地域の学校か迷っているので、相談にのって欲しい」

【教育実践支援】

- ▶ 相談件数:11件(再相談を除く)
- ▶ 相談例(主に、学校の先生からのものです)
 - 「友人と馴染めない、トラブルを起こすこと気になる生徒がいる。手だてがなく、有効な関わりを知りたい」
 - 「授業やクラスに入れず、友だちとも上手く関われない子どもへの対応についてアドバイスが欲しい」

発達支援・教育実践支援の実績総件数:246件(問い合わせ、再相談、専門プログラム等を含む)

……発達支援や教育実践支援のご利用につきましては、当センターホームページをご参照下さい……

【研修会の実施】

| 平成20年度特別支援教育支援員養成講座 | |
|---------------------------|--|
| ① 6/28(土) | 「ライフサイクル全般の支援」 田中康雄 氏(北海道大学) |
| ② 8/19(火) | 「保育の場での支援」 丸山美和子 氏(佛教大学) |
| ③ 9/20(土) | 「学校での支援」 中尾繁樹 氏(関西国際大学) |
| ④ 10/18(土) | 「社会参加へ向けての支援」 岩坂秀樹 氏(赤城少年院)、松浦直己 |
| ⑤ 1/10(土) | 「感覚統合理論を活かした園や学校生活支援」宮崎義博(奈良県総合リハビリセンター)、宮崎瑠理子 |
| ⑥ 2/21(土) | 「教室での子どもとのかかわり方-認知行動療法を応用して-」松浦直己 |
| ⑦ 3/7(土) | 「ソーシャルスキルに注目した子どもと親への支援」 岩坂英巳 「学校で活動するにあたって」 河合淳伍 |
| 平成20年度公開講座「ライフサイクルに応じた支援」 | |
| | 上記養成講座の①～④は、公開講座もかねて実施しました |
| ⑤ 12/6(土) | シンポジウム「特別支援教育モデルの実践開発と連携の充実をめざして」 シンポジスト:相澤雅文氏(京都教育大学)、井澤孝典氏(神戸大学附属特別支援学校) 坂下伸一氏(奈良教育大学附属小学校)、岩坂英巳 コーディネーター:玉村公二彦 指定討論:越野和之 |
| 総参加者数 1094名 | |
| 養成講座 | |
| 7/13(日) | ペアレントトレーニング指導者養成講座(初級編) 岩坂英巳 |
| 7/26(土) | ペアレントトレーニング指導者養成講座(上級編) 岩坂英巳 |
| 8/23(土) | ソーシャルスキルトレーニング指導者養成講座 講師:実践されている先生方、岩坂英巳 |
| 8/26(火) | ティーチャートレーニング養成講座 講師:実践されている先生方、岩坂英巳 |
| 参加者総数 147名 | |

……受講された方の声(アンケートから一部抜粋)……

- ▶ 発達障害の児童への支援の仕方がわかってきた
 - ▶ 講座で知ったことが実際の現場で合致したとき‘そういうことだったのか!’と思った
 - ▶ 生徒が表す症状の意味が理解できたことで、それまで苦しかった実践が楽しくなった
 - ▶ 受講していなければ、子どもの問題行動を‘わがまま’としか感じられなかった。まず知ることが大切だと感じた
- ……他にも、たくさんの感想やご意見を頂きました。ご協力ありがとうございました……

【専門プログラムの実践報告】

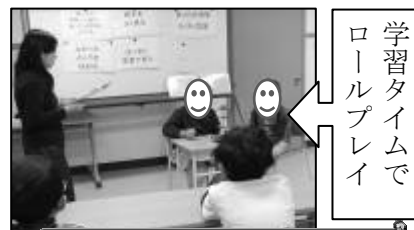
ソーシャルスキル トレーニング (SST)

奈良教育大学 ‘土曜SSTくらぶ’

「友だちと上手く遊ぶためのワザを身につけよう」というテーマで、友だちと関わりが持ちにくい子どもたちを対象に月1回実施しています。20年度は、小学校3年生から5年生の男の子8人が元気に参加しました。SSTは米国UCLAのプログラムをもとに、スタッフの劇を見てもっと上手いく方法を考え実際にやってみる学習タイムと学習したことを生かして遊ぶ遊びタイムに別れています。スタッフが子ども達の通う学校へ訪問・観察を行ったり、子ども達には学校・家庭での宿題が出たりと周りの大人達の協力も欠かせないプログラムです。最初は緊張した様子だった子ども達も次第に仲良くなり、楽しく学び・遊ぶことができました。

スタッフとして参加された 現職先生から感想を頂きました！

「SSTの模擬授業や実践報告は聞いたことはあったが、子どもに対して実際に行ったのは初めてで、毎回毎回子どもや周りのスタッフから学ばせてもらった貴重な経験だった。中でも、ロールプレイは事前の打ち合わせや練習が大切で、顔の表情がわかりやすいように気をつけた。子どもたちは、学習タイムでスキルを学び、そのスキルを使って遊びタイムでゲームをするという流れの中で、怒りをコントロールしたり、相手を気遣う声かけを言えたりして、少しずつメンバー同士でうまくつき合っていく姿を見て、SSTの効果と子どもの可能性を実感できた。」



上手に声をかけあおう



遊びタイムでスキルを活用

ペアレント トレーニング (PT)

米国UCLAのプログラムを日本風にアレンジしたもので、「診断治療ガイドライン」でも推奨され、その有効性が確認されています。保護者が全10回半年間参加し、AD/HDなどを持つ子どもたちの行動を理解し、適切な対応法を具体的に学習・練習して身につけて、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目指します。

平成20年度は…

第11期となるPTには、小学校3年生から中学2年生までの子どものお母さん7名が参加しました。回を重ねるにつれて子どもの良いところ探しも盛り上がるようになり、メンバーお互いに子どもたちの成長を喜び合う姿がみられました。子どもが達成できやすいように上手に指示が出せるようになるので、子ども自身もできること、ほめられることが増えて、自信をつけていきました。

また、他の機関でのPT実施のお手伝いや指導者養成研修会(P.2参照)も行いました。

日本LD学会第17回in広島(11/23)への参加報告

当センタースタッフが企画者となり、「特別支援教育研究センターからの専門プログラムの地域への発信ー地域連携・実践研究・人材育成を視野に入れてー」をテーマで自主シンポジウムを開催しました。スタッフらが本センターの取り組みを報告したほか、田中康雄先生(北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授)には指定討論を、今西満子先生(奈良市立鳥見小学校教諭)には事例報告をお願いしました。

約100人を収容する教室はすぐに満席になるほどの盛況ぶりです。特別支援教育における地域連携・実践研究に対する関心の高さを改めて感じました。指定討論者の田中先生には今後の活動における貴重な提言や励ましの言葉をいただきました。またフロアの皆さんからもたくさんの質問や意見をいただきました。



平成21年度予定 ..内容や申込方法など詳細はHPをご参照ください..

【研修計画】

特別支援教育支援員養成講座 (時間は全て 13:30-16:30 を予定しています。〔 〕内は会場(奈良教育大学構内)

- ①6/27(土)「特別支援教育と通常学級での支援」 清水貞夫氏(宮城教育大学 名誉教授) [大講義室]
- ②8/25(火)「幼児期の発達で大切な事」 加藤寿宏氏(京都大学医学部人間健康科学科 准教授)
「連携をもとにした支援の実践報告」 石原詩子氏(京丹波町子育て支援課) [大講義室]
- ③10/24(土)「読み書きのつまずきへの気づきと支援—通常の学級の中で—」
村井敏宏氏(平群東小学校 ことばの教室) [大講義室]
- ④11/21(土)「思春期の不登校について—高校の実践事例から—」 鍛冶田千文氏(大阪 YMCA) [山田ホール]
- ⑤12/5(土) シンポジウム「幼児期から就労までの支援を考える」
岡本とも子氏(仔鹿園) 小島秀一氏(なら障害者就業・生活支援センターコンパス)
竹林政雄氏(奈良市教育委員会) 楠本伸枝氏(えじそんくらぶ奈良『ポップコーン』代表) [山田ホール]
- ⑥1/23(土)「特別支援教育を踏まえた体育授業のマネジメントを考える—全国の実態調査から—」
金山千広氏(聖和短期大学 准教授)
「創るスポーツの楽しみ」 藤田紀昭氏(同志社大学スポーツ健康科学部 教授) [山田ホール]
- ⑦2/6(土)「医療との連携を考える」 根来秀樹 「学校で活動するにあたって」河合淳伍 [山田ホール]
講演後、修了式を行います。(修了証授与)

養成講座

- ①^ペアレントトレーニング^{指導者養成講座} 7月25日(土)26日(日) 講師：岩坂英巳
- ②^{ティーチャートレーニン}指導者養成講座 8月18日(火) 講師：岩坂英巳、現場で実践されている先生方

※今年度は、当センター主催の

SST 指導者養成講座はありません。

SST に関する研修をご希望の方へ

‘SST 経験交流ワークショップ in 奈良’
が9/19(土)~20(日)開催されます。

詳しくは <http://www.pac.ne.jp/sst15/> を
ご参照下さい。当センターの SST スタッフに
よる分科会も予定されています。

【専門プログラム 予定】

- ^{ソーシャルスキル}トレーニング^(SST) 平成21年5月~平成22年2月
月1回土曜日午前中の全10回実施予定
(他、事前事後評価・レクレーション・修了式も実施します)
- ^ペアレントトレーニング^(PT) 平成21年6~11月
主に火曜日午前中の全10回実施予定。
(修了式・個別ブースターも実施します)

特別支援教育研究センター スタッフ

新しいスタッフも加わり、一層パワーアップしました。今年度もよろしくお願い申し上げます

- ★センター長：岩坂英巳(精神科医)
- ★特任教授：河合淳伍(元教員)
- ★特任准教授：松浦直己(特別支援教育士SV)
- ★相談員：植村里香(臨床発達心理士)、
宮崎瑠理子(作業療法士)
- ★教育学部兼務教員：玉村公二彦、越野和之、
根来秀樹
- ★庶務：大久保直子、
武藤葉子(相談員兼務)



…新スタッフからごあいさつ…

はじめまして、根来(ねごろ)と申します。平成21年3月末まで、奈良県立医科大学 精神科で児童思春期外来を担当してきました。その経験を活かして、また新たなスキルを身につけ、特別支援教育研究センターで子ども達の支援を、ご両親、教員の方々と共に考えていきたいと思っています。子ども達やご家族、そして医療、教育、また様々な関係機関との連携が大切であると考えてきた私にとって、特別支援教育研究センターは願ってもない場です。どうか、よろしくお願いいたします。